



高齢者の日常生活における死亡・重篤事故状況 (令和3年速報値)

東京消防庁管内¹⁾では、令和3年中²⁾に日常生活における事故で救急搬送された方123,433人のうち、1,536人が死亡・重篤に至った事故でした。

日常生活での思わぬケガでも生命を脅かす重大事故に繋がります。本人だけでなく家族や地域で事故防止を考えていくことが大切です。

- 1) 東京都のうち、稲城市、島しょ地区を除く地域
2) 速報値であり、今後、数値が変わる可能性があります。

1 日常生活における生命の危険がある事故

- (1) 日常生活における生命の危険がある事故はどのくらい発生しているの？

令和3年中の日常生活事故を事故種別ごとに見ると“ころぶ”事故が最も多いですが、死亡・重篤の割合に着目すると“おぼれる”事故の割合が最も高くなっています(図1)。

また、死亡・重篤における事故種別ごとの割合は、約半数が“おぼれる”“ものがつまる等”の事故です(図2)。“不明”が3番目に多いですが、これは、救急現場において、原因を断定できない状況が多くあることから、原因が明らかでないものは“不明”としています。

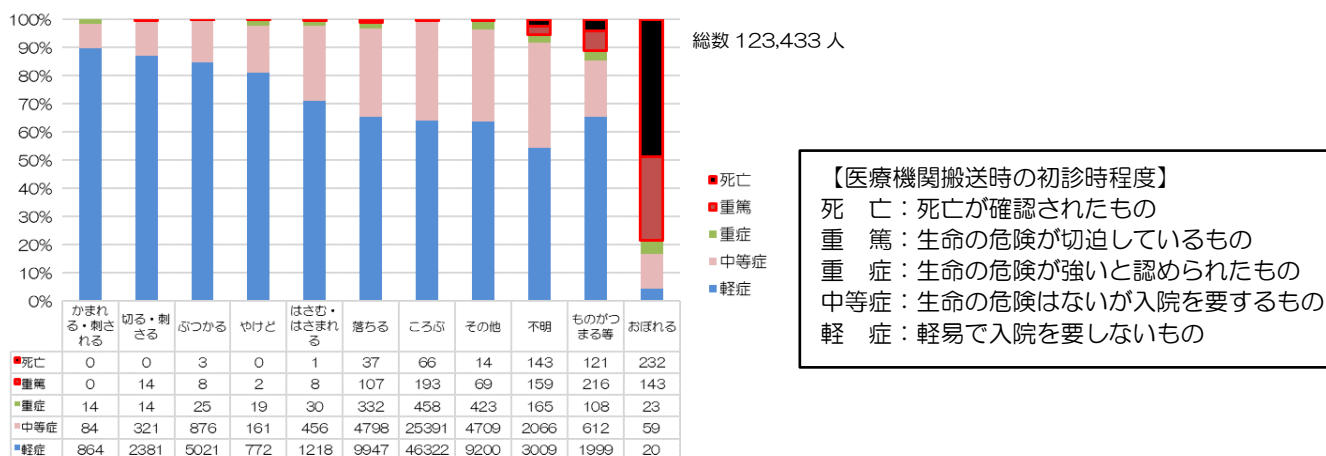
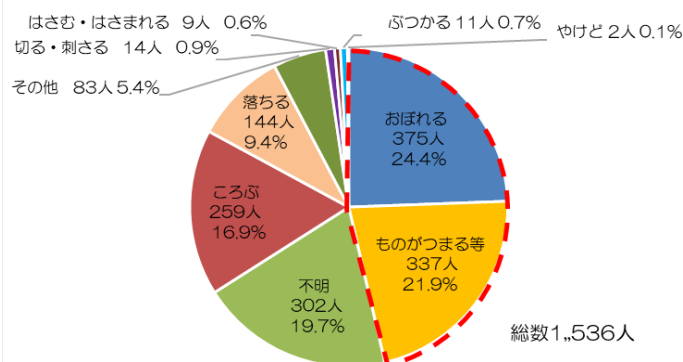


図1：日常生活事故の救急搬送人員における初診時程度の割合



お ぼ れ る：浴槽、プール、河川等で溺れたもの
も の が つ ま る 等：食物または、食物以外のものを飲み込んで受傷したもの（目・耳・鼻へ異物が入ったものを含む）
こ ろ ぶ：倒れた際に高低差の移動を伴わず受傷したもの
落 ち る：倒れた際に高低差の移動を伴って受傷したもの
切 る ・ 刺 さ る：刃物や鋭利物等により受傷したもの
は さ む ・ は さ ま れ る：物体間または物体内に挟まれたもの
ぶ つ か る：人と人、人と物との衝突により受傷したもの
や け ど：高温の液体、気体等により受傷したもの
か ま れ る ・ 刺 さ れ る：動物や虫などにかまれた、刺された等により受傷したもの

図2：死亡・重篤事故における事故種別の割合

(2) どの年代で多く起こっているの？

高齢者で多いですが、乳幼児でも死亡・重篤事故は発生しています。

また、事故種別毎で見ると、**高齢者では、“おぼれる”“ものがつまる等”の事故が多く、年齢が下がるにつれ少なくなっています（図3）。**

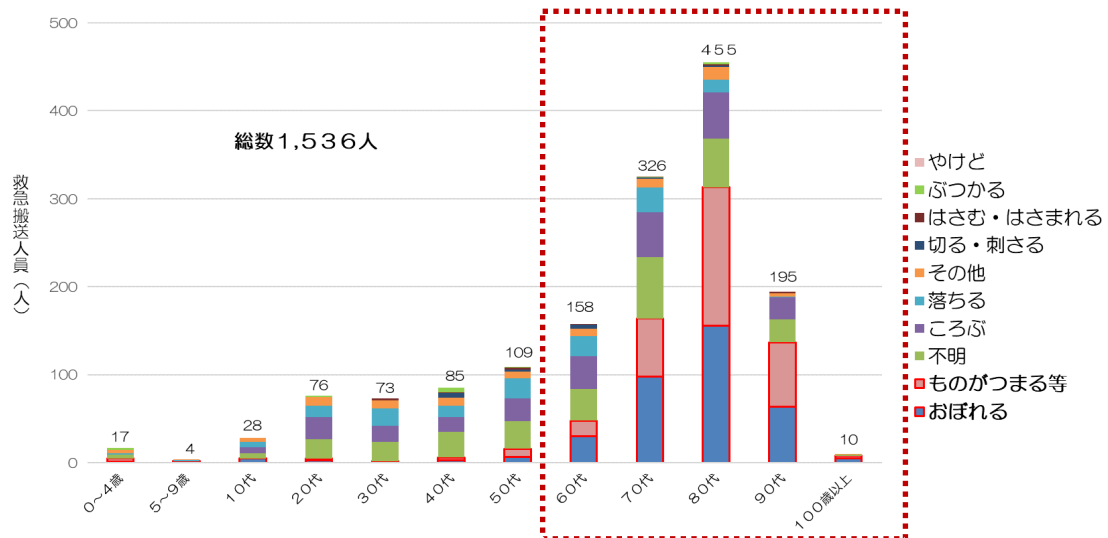


図3：死亡・重篤事故における年代別の事故種別の割合

(3) どのような場所で起こっているの？

全ての年代において、“住宅等居住場所”で多く発生しています。本人や家族等が家庭内で起こりやすい日常生活事故を知っておくことや、年代毎に合わせた事故防止対策をしておくことで未然に防げる事故も多くあります（図4）。

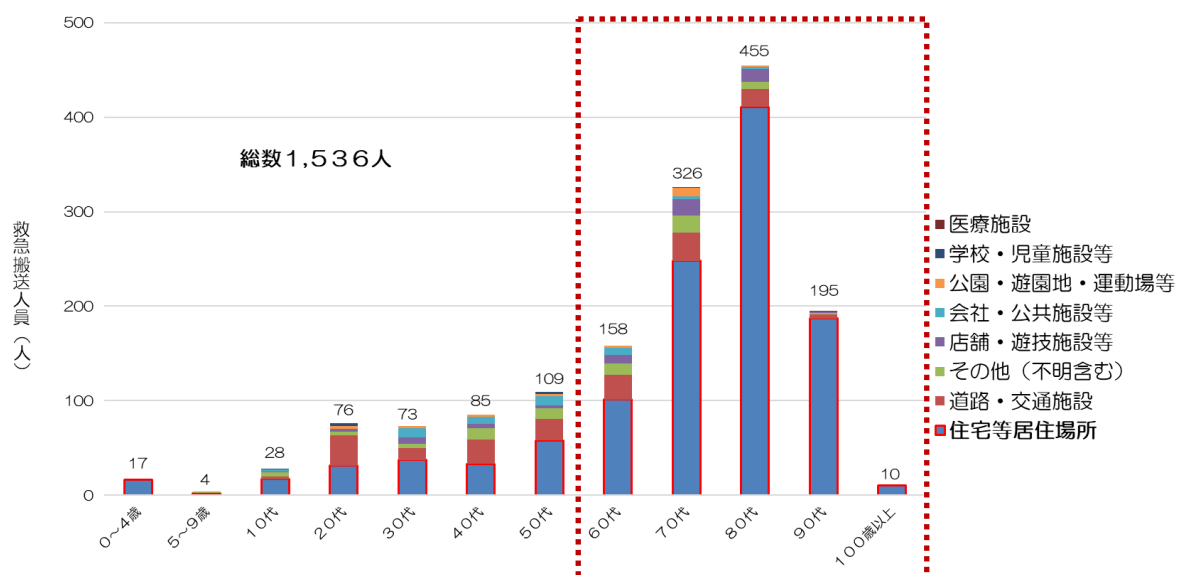


図4：死亡・重篤事故における年代別の発生場所の割合

2 事故種別ごとの概要と対策

(1) おぼれる

おぼれる事故375件中、9割以上に当たる353人が“浴槽”でおぼれています。
また、年齢別では、高齢者で多く発生しています（図5、6）。

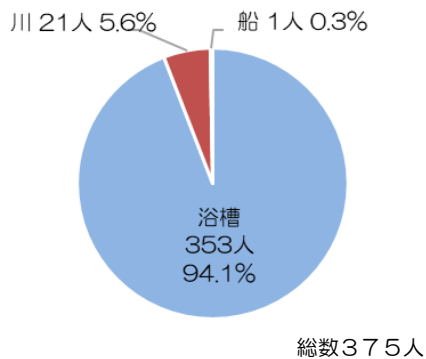


図5：おぼれる事故の発生場所（死亡・重篤）

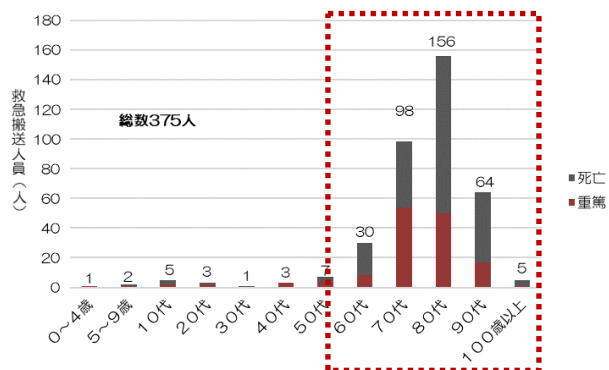


図6：おぼれる事故の年代（死亡・重篤）

おぼれる事故を防ぐために

入浴時

- ・長湯、高温浴は避けましょう。
- ・飲酒後の入浴はやめましょう。
- ・入浴時には家族に知らせ、家族はこまめに声をかけましょう。



(2) ものがつまる等

ものがつまる原因で最も多いのは“食物”ですが、これは食事中に起こったものであり、つまった物が特定できない場合に“食物”と記載しています。次いで“おかゆ類”“餅”が多く発生しています。その他は、5人以下の原因物をまとめたものであり、“煎餅”“薬剤等”がありました。

また、年齢別では、高齢者で多く発生していることから注意が必要です。（図7、8）。

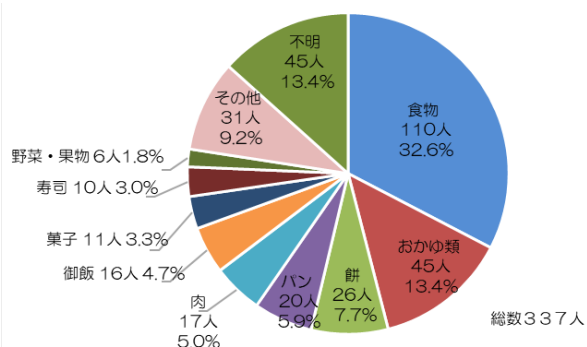


図7：ものがつまる等事故のつまった物（死亡・重篤）

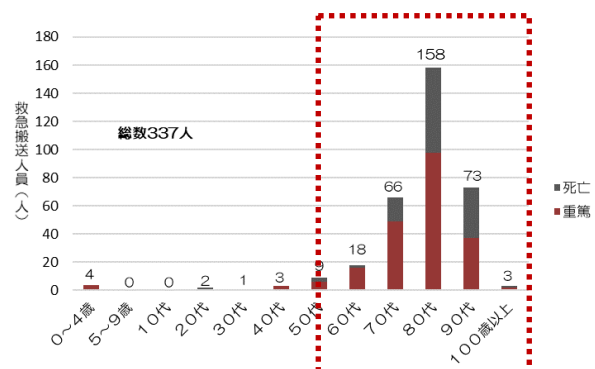


図8：ものがつまる等事故の年代（死亡・重篤）

ものがつまる・誤って飲み込む事故を防ぐために（窒息・誤飲防止）

- ・小さく切って、良く噛みましょう。
- ・お茶など水分を取りながら食事しましょう。



(3) ころび

ころび事故の6割以上が“住宅等居住場所”で発生しており、高齢者で多く発生しています（図9、10）。

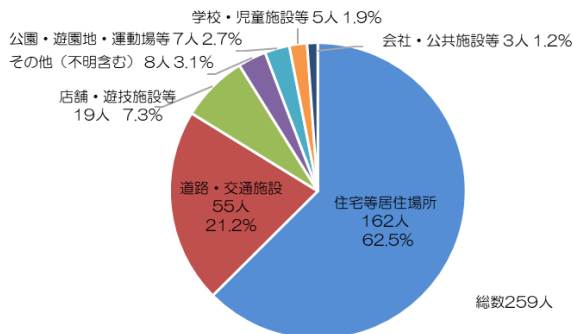


図9：ころび事故の発生場所（死亡・重篤）

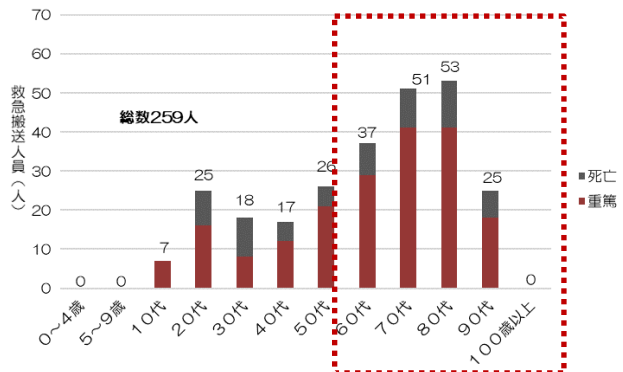


図10：ころび事故の年代（死亡・重篤）

ころび事故を防ぐために（転倒防止）

- ・立ち上がる時は近くのものにしっかりとつかまりましょう。
- ・着替えるときには、無理して片足立ちせず腰かけましょう。
- ・敷居につまずかないように、体力を增強して、つま先を上げてすり足を改善しましょう。
- ・乗り物に乗り降りする際は、足元の段差に気を付けましょう。
- ・自転車で段差を乗り越えるときは、急がずあわてず慎重に乗り越えましょう。
- ・エスカレーターに乗るときは、しっかりと手すりをつかみましょう。



(4) 落ちる

落ちる事故の発生場所では“階段・梯子・踊り場”が最も多く、次いで“歩道・歩道橋・遊歩道・散策路”“屋外工事現場・作業場所”となっています。

また、年代別では、70代で最も多く発生しています（図11、12）。

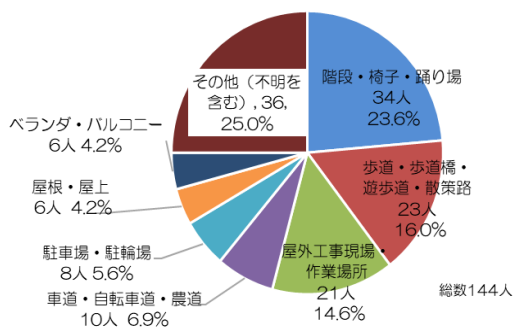


図11：落ちる事故の発生場所（死亡・重篤）

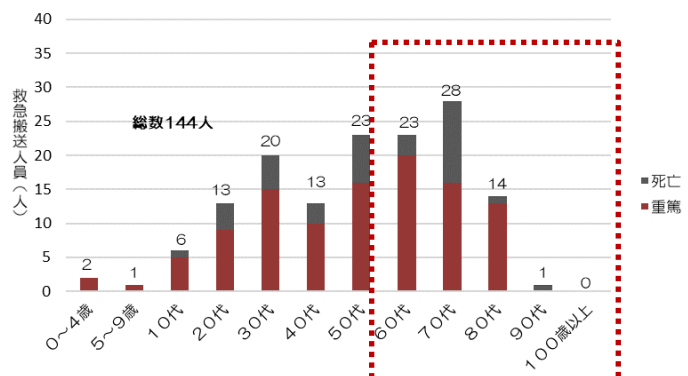


図12：落ちる事故の年代（死亡・重篤）

落ちる事故を防ぐために

- ・階段がある家庭では、階段には握りやすく滑りにくい手すりを設置しましょう。
- ・滑り止めマットを敷くなど、事故防止対策をとりましょう。



日常生活で起こりやすい事故を知っておき、
事前に対策や注意をしましょう。